

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	ヴォーカルⅢ	
開設学科	声優・演劇科		コース名	声優コース／俳優・タレントコース		開設期	前期
対象年次	2年次		科目区分	選択		時間数	60時間
単位数	2単位		授業形態	実習			
教科書/教材	授業時に適宜配布する						
担当教員情報							
担当教員	未定			実務経験の有無・職種		未定	
学習目的							
ミュージカルにおいて必要な要素である「歌唱」を中心に授業を進めていく。よって1年次で学んだヴォーカルスキルを活かし歌唱表現の向上を目指すこと、声優・演劇の現場に適応した歌唱技術を発揮できる能力を身につけることを目的とする。ジャンルに偏ることなく様々な曲を歌唱し、歌唱表現に必要な技術と知識を深めることにより、多様化する業界の現場でのニーズを見極め、柔軟に対応する力を養い、総合的にミュージカルへと繋げていくことを目指す。							
到達目標							
多ジャンルの課題曲に触れ歌唱力を養うこと、基礎的な読譜力を養い音楽用語の知識を身につけ実践で活かせるようにすること、1年次に学んだヴォーカル基礎を活かし表現力を向上させ、人前での歌唱、実践（オーディション・ライブ・レコーディング等）で力が発揮できるようにすること、ミュージカル業界の動向について関心を持ち知識を深め、歌唱スタイルの変化など時代のニーズに対応し、これからのミュージカルにおける歌唱へと応用できるようにすることを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	始めに歌唱に必要なウォーミングアップを行い、その後スコアを基に読譜し、様々なスタイルの歌唱を行う。歌いやすい曲で基礎力を養い、ミュージカルナンバーやコーラス曲、日本のポップスなど色々なジャンルの歌唱スタイルを学んでいく。課題曲に応じてソロ歌唱、グループ歌唱を適宜に取り入れる。人前での自己表現・自己アピールを習慣化し、表現力を養い、観客に伝える力を身につけていく。ストレッチや発声など継続的に必要な練習を自主的に習慣化する力を養う。						
注意点	ウォーミングアップ、歌唱練習に支障のない動きやすい服装で授業に臨むこと。授業中の私語や受講態度等には厳しく対応する。社会への移行、実践で活かすことに留意し、課題の予習復習と体調管理の継続性を意識した態度で参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	50%	試験・課題の完成度、課題に対する取り組みの積極性において評価する。				
	小テスト	10%	授業内に口頭やプリントへの記入形式で随時行い、読譜・音楽用語の理解度によって評価する。				
	成果発表 （口頭・実技）	20%	授業内の各課題発表の表現力、事前準備への態度によって評価する。				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度、コミュニケーション力によって評価する。				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	ガイダンス			前期授業内容説明、発声練習（基礎）、読譜説明			
2回	基礎的な歌唱表現トレーニング1			課題曲の正確な音程・リズムを把握し、読譜力・歌唱力を養う。			
3回	基礎的な歌唱表現トレーニング2			課題曲の強弱・日本語の発音・フレーズを意識し、表現力を養う。			
4回	基礎的な歌唱表現トレーニング3			課題曲の精度を高める。実践を想定し、人前で歌唱し表現力を身につける。			
5回	ミュージカルナンバーを歌う1			課題曲の正確な音程・リズム・歌詞の発音を把握する。			
6回	ミュージカルナンバーを歌う2			作品・役柄を理解し、キャラクターの個性を考えて表現する。			
7回	ミュージカルナンバーを歌う3			デュエット曲を課題とし、ハーモニーやフレージングを考える。相手と息を合わせることを学ぶ。			
8回	ハーモニーの基礎トレーニング1			課題曲の正確な音程・リズムを把握し、音程感を養う。			
9回	ハーモニーの基礎トレーニング2			各パートの役割を考える。互いのパートを聴き合いコミュニケーション力を養いながら精度を高める。			
10回	多ジャンルの歌唱トレーニング1			低音域を中心とした日本のポップスを課題曲とし、必要な表現力を学ぶ。			
11回	多ジャンルの歌唱トレーニング2			現代のリズム感覚を掴む。課題曲のビート・リズム・歌詞に焦点を置き、リズム感を養う。			
12回	多ジャンルの歌唱トレーニング3			高音域を中心とした日本のポップスを課題曲とし、必要な表現力を学ぶ。			
13回	総合的な歌唱トレーニング1			幅広い音域の課題を想定し、音程感・リズム感・表現力を個々に養う。			
14回	総合的な歌唱トレーニング2			前回の練習をふまえ、パフォーマンスを加えて完成度を高める。			
15回	授業内発表・個別指導			課題曲を人前で歌唱し、技術の正確性と表現力を発揮できるようにする。			